

北米発着の海上コンテナ輸送、全世界へのフラットラック・オープントップコンテナ（オーバーゲージカーゴ）の輸送を得意としているジャパントラストです。

日刊CARGO(2021年11月5日発行)に、弊社ジャパントラストの取り組みが記載されました。

特集記事は[こちら](#)

以下同記事より引用。

### 北米向けに多目的船定期チャーター

全世界のオーバーゲージ（OG）貨物や北米向けを主軸にするFCL専門NVOCC、ジャパントラストは、コンテナ船以外の船舶のスペースチャーターを拡大している。10月、同社として初めて韓国・中国発の多目的船（MPP）の定期チャーターを開始する。多目的船の一部スペースを押さえ、日本発貨物を韓国や中国経由で米ヒューストン向けに毎月レギュラーで輸送する計画だ。9月後半には、今年2回目の在来船チャーターも断行。在来船のオンデッキ（甲板）スペースを自社専用に借り受け、下関-米LAで輸送している。

北米向けを主軸とする同社は、あらゆる手段でスペースをかき集めている。1年以上かけて海外船社と交渉してきたことが実り、韓国・中国-ヒューストン航路の多目的船のスペースの一部を同社が専用に借り受けることが決まった。日本発貨物をコンテナ船で韓国や中国港湾に運び、積み替えてヒューストンに海上輸送。ヒューストンからトラックなどに接続し、全米各地までドア・デリバリー可能だ。

菅哲賢代表取締役社長は「コンテナ船でないスペースも何とか確保するために動いてきた。韓国・中国発で（日本より相対的に運賃の高い）現地の荷主との運賃競争になるが、それでも当社に（スペースを）定期的に任せてくれた。ヒューストン以外に、40フィートコンテナで1回に100本程度のブッキングがあれば、LAやサバンナなど他港への寄港もアレンジできる」と説明する。

空コンテナ不足も継続している。多目的船に積むコンテナは、同社がSOC（シッパーズ・OWN・コンテナ）として調達する考えで、ブッキング以前にコンテナ手配のオファーが必要になる。

SOCでの活用を前提に、同社が今夏前に発注した初の自社バンは完成し、名古屋港付近で保管している。中国の工場で整備し、「JAPAN TRUST」のロゴや連絡先などを壁面に記入。コンテナ番号に社名略字の「JTC」を冠した、自社オリジナルの「JTCコンテナ」だ。20フィート、40フィートハイキューブ各5本の計10本。

コンテナ船社とは、今年の日発北米向けのSC（サービス・コントラクト）で、MQC（最低積み荷保証）で前年比1.5倍の計1万5000TEUを契約している。そのうえで、このほど特定船社とは、船社のコンテナ手配でなく、ジャパントラスト手配のSOCであれば北米向けの追加スペースの供給を受けられることになった。多目的船チャーターも含み、自社の「JTCコンテナ」をSOCとして活用、重要顧客に提供して、北米までワンウェイなどで使用する考えだ。

在来船チャーターでも、コンテナはSOCで同社が手配して提供した。9月21日に下関で荷役を終え、10月前半にLAIに到着予定だ。3月末～4月後半に実施した今年1回目は、名古屋-米LAでの在来船チャーターでOG貨物が中心だったが、今回はコンテナ貨物を対象とした。

記事の詳細は[こちら](https://www.jpitrust.co.jp/jtc/wp-content/uploads/2021/11/20211105ChubukenSpecial-10.pdf)>><https://www.jpitrust.co.jp/jtc/wp-content/uploads/2021/11/20211105ChubukenSpecial-10.pdf>